View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

〔実践報告〕

老年看護学実習の学びにポスターツアー（ジグソー法）を用いた教育実践の評価

高田　由美[1)]　佐藤美恵子[1)]　吹田夕起子[1)]　疋田　由香[2)]　林　孝平[1)]

Evaluation of a poster presentation-based educational practice (jigsaw Method) for learning in geriatric nursing practice

Yumi TAKADA[1)], Mieko SATO[1)], Yukiko SUITA[1)], Yuka HIKITA[2)], Kouhei HAYASHI[1)]

要旨：本稿では看護学部３年生の「老年看護学実習Ⅰ」の科目におけるポスターツアー（ジグソー法）を用いた教育実践の概要および実施状況、さらに学生からの評価をもとに教育実践の効果を述べる。

2019年９月～10月、58名の学生は老年看護学実習（高齢者施設実習）の学びをグループでまとめてポスターを作成した。ジグソー法による実習グループの再編成後にポスターツアーを実施した。実習終了後、対象学生へ無記名自記式のアンケート調査を実施した。

調査の結果、“実習施設の理解が深まった”は「とてもそう思う」93.1%、「少しそう思う」5.2%、「無回答」1.7%であった。“他施設の役割・機能がわかった”は「とてもそう思う」93.1%、「少しそう思う」3.4%、「どちらでもない」および「無回答」ともに1.7%であった。“施設間の相違がわかった”についても同じ傾向を示した。

ポスターツアー（ジグソー法）を用いた実習の学びの共有は、質疑応答に十分な時間を費やすことが可能となり、発表全体への理解度を深めた。また、個々のグループメンバーが代表として責任をもってグループの学びを他のメンバーへ発表することは、フリーライダーを抑止し、個人の学びを深めることに効果的であった。

キーワード：ポスターツアー（ジグソー法），老年看護学実習，教育実践，高齢者施設

Abstract: This study outlined an educational practice based on poster presentations (jigsaw method) in the course “Geriatric Nursing Practice I” taught to third-year students at the faculty of nursing in A nursing college. We also described the implementation status of the educational practice and its effectiveness based on students’ evaluations.

From September to October 2019, 58 students created posters in groups summarizing what was learned during their practical training in Geriatric Nursing Practice I (i.e., practice at older adult care facilities). Poster presentations were conducted based on the jigsaw method after the students of the training group regrouped. After the practical training was completed, the students were surveyed using an anonymous self-administered questionnaire.

According to the survey results, 93.1% of the students responded “Strongly agree” to the statement “I gained a deeper understanding of the training facility,” whereas 5.2% responded “Somewhat agree,” and 1.7% did not provide a response. Regarding the statement “I understood the role and function of other facilities,” 93.1% of the students responded “Strongly agree,” whereas 3.4% responded “Somewhat agree,” and 1.7% either responded “Neither agree nor disagree” or did not provide a response. The same tendency was observed with regard to the statement “I understood the differences between facilities.”

Sharing what was learned during the practical training through poster presentations (jigsaw method) allowed the students to spend sufficient time on questions and answers which deepened their understanding of all presentations. Further, each group member presented what their group had learned to other groups, which was effective in deterring freeloaders and promoting intensive individual learning.

Key words: poster presentations (jigsaw method), geriatric nursing practice, educational practice, older adult care facilities

1）日本赤十字秋田看護大学
2）秋田市医師会訪問看護ステーション

1）Japanese Red Cross Akita College of Nursing
2）Akita City Medical Association Home Visit Nursing Station

Ⅰ．はじめに

看護基礎教育における老年看護学の位置づけは、看護学生と世代の異なる高齢者の理解を主軸にし、様々な療養や生活の場の特徴や多職種連携について学ぶことにある。著者らが所属するA看護大学の老年看護学実習Ⅰでは、実習グループごとに、異なる高齢者施設に赴き、入所高齢者との関りや多職種連携などを見学し生活の場の特徴を学んでいる。実習終了日には、各グループが実習した高齢者施設の特徴などをまとめ、発表と全体討議から構成された報告会の場を経て、学びの共有を図ってきた。

こうしたグループごとに違う施設での学びを発表および全体討議によって共有を図る方法は概ね有効といわれているが、一方で他のグループの発表を理解するには限界がある、質疑応答時間が不足するというデメリットがあることが指摘されている（出井，河原畑，平木，名古屋，小野，2013）。本学の老年看護学実習Ⅰの報告会の全体討議も同様に、発表内容に関する感想に留まることもあり、他のグループの実習した施設の特徴を十分理解できるレベルに至っていないことが推察された。

また、報告会ではグループワークのまとめた内容を複数のグループメンバーが分担して発表しており、最終的なまとめが不足しているものも散見された。このことから、グループワークにおける学びをまとめる過程での議論が不十分であることが推察された。森（2017）は、グループ学習の問題として、仲間の功績にただ乗りするフリーライダーの存在、またそれを避けるために導入されたグループ学習の過度な構造化が引き起こす自分の担当箇所以外への無関心さなどを挙げている。

さらに、グループワークでまとめた内容には、各実習施設の施設理念や方針の違いが反映するデータ、例えば介護老人保健施設の在宅復帰率や作業療法士の定員数なども示されていた。それゆえ、報告会の質疑応答では、他施設での在宅復帰率や施設内の職員配置等に関する質問がされることもあり、施設ごとの特徴の差を殊更に強調するものも少なからずあった。本来、報告会の目的は各施設の特徴と高齢者との関りにおける学びを共有することであり、学生にもオリエンテーションで説明を行っていた。しかし、前述したように報告会の全体討議の場で各施設の差を際立たせたり、優劣をつけるような質疑応答が垣間見られる状況からは、報告会により十分な学習効果が得られているのか疑問が生じた。

以上のことから、老年看護学実習Ⅰにおける学びの共有における課題として、フリーライダーの存在や担当箇所以外の無関心さ、質疑応答における時間的制限やグループ同士の発表における対立的な状況がもたらす学習効果への影響が考えられた。溝上（2014）は、互いが敵対して、ひとりが勝てば他が負けるといった学習（競争）よりも、「自身（own）」と「互い（each other）」の学習をともに最大化させる協同学習の方が学習効果は高いと述べている。そこで、協同学習の一つである教え合いの技法であるポスターツアー（ジグソー法）を取り入れた教育実践を行うこととした。

本稿では看護学部３年生の「老年看護学実習Ⅰ」の科目におけるポスターツアー（ジグソー法）を用いた教育実践の概要および、実施状況、さらに学生からの評価をもとに教育実践の効果を述べる。

Ⅱ．ポスターツアー（ジグソー法）とは

ジグソー法は教え合いの技法である。各グループ（エキスパートグループ）で課題に取り組み、その後、エキスパートグループを解体し、新たなグループ（ジグソーグループ）を再編成して、学習を実施する。相互に学んだ内容を伝え合い、ジグソーパズルを解くように協力して課題を達成していく方法である。

ポスターツアーとは、ジグソー法の応用である。ポスターとは、模造紙などの大きな紙１枚に学習内容などを分かりやすくまとめたものである。ポスターツアーはこのポスター作成に加え、ジグソー法的なグループの再編成を行って、各担当者が発表することで、全体で全てのポスターの内容を共有する活動である（竹中，餅知，2017）。

Ⅲ．ポスターツアーを用いた教育実践の概要

１．老年看護学実習の概要

老年看護学実習４単位（４週間）は、介護老人保健施設・老人福祉施設などの高齢者施設で１週間実施する老年看護学実習Ⅰと、医療施設で高齢者を受け持ち、看護過程を展開しながら３週間実施する老年看護学実習Ⅱとで構成されている。

老年看護学実習Ⅰは、１グループ４～５名の４グループが４施設に分かれ実施している。実習初日に学内および各実習施設にてオリエンテーショ

ンを実施、実習２～４日目は各実習施設にて臨地実習指導者の下、高齢者の日常生活の見学や援助を実施し、実習５日目の最終日には学内にて実習の学びを共有している。

２．老年看護学実習Ⅰの目標

老年看護学実習Ⅰの実習目的、実習目標を以下に示す。

＜実習目的＞

１）老年看護学の知識、技術を活用し、老年期にある人を総合的に理解する。

２）高齢者を取りまく保健・医療・福祉システムの現状を知り、チームケアの必要性と看護職の役割・機能を理解する。

＜実習目標＞

１）実習施設（介護老人保健施設・老人福祉施設等）の制度上の位置づけを説明できる。

２）高齢者の生活環境の特徴について説明できる。

３）加齢に伴う変化や健康障害が日常生活に与える影響を踏まえて、援助の意味を説明できる。

４）スタッフとともに、高齢者の生活上の問題に応じた日常生活の援助が実施できる。

５）保健・医療・福祉チームの各職種の役割・機能を説明できる。

６）保健・医療・福祉チームの一員として期待される看護職の役割・機能を考察できる。

７）保健・医療・福祉チームの各職種間の連携を説明できる。

８）高齢者の人権や意思を尊重した態度で関わることができる。

３．学生のポスターツアー（ジグソー法）の実際

実習最終日、図１を配布し、学内演習の目的、方法を説明し実施した。

１）事前準備（所要時間180分）

①ディスカッション

実習グループ（４～５名１組の４グループ４施設）に分かれて、実習での学びを振り返りながら「実習施設の役割と機能」、「生活の場における高齢者の強みを生かした援助」、「多職種連携の実際と看護職の役割・機能」についてディスカッションをする。

②ポスター作成

実習グループ内でディスカッションした内容を他者にわかりやすいポスターにまとめる。様式は模造紙１枚を使い、実習グループでタイトルを決め、レイアウトは自由に学びを記載する。留意点として、文字の多用よりも図やイラストを活用し視覚的に理解できる工夫をすること、写真貼付、レクリエーションで使用した物品などの実物掲示も可能であること、単に書き写すのではなく、相互に話し合った内容を理解しまとめるというプロセスを反映するためにパワーポイント資料の貼付は不可とした。

２）ポスターツアーの実施（所要時間90分）

①ポスターツアーの発表

異なるポスターを作成した者同士で新しいグループ（ツアーグループ）を作り、自分が作成した実習施設のポスターについて他の実習グループメンバーに説明をする。各ツアーグループに実習グループメンバーが最低１～２名入るように再編成した（図２,写真参照）。ポスターツアーの発表

写真１　ポスターツアーの様子

写真２　ポスターツアーの様子

時間は質疑応答を含め15分とした。15分経ったら次のポスターへ移動し、自分が作成した実習施設のポスターについてツアーグループメンバーに説明をする。例えば、ツアーグループが施設Aのポスターの前に来た時は、施設Aで実習した学生が他者へ説明をする。次に施設Bのポスターへ移動した際は、施設Bで実習した学生が他者へ説明をする。これを繰り返す。発表終了後、全体ですべてのポスター内容の共有を図った。

②記録の整理

全体を通しての学びを、各自記録用紙にまとめた。

４．調査対象および調査期間

調査は、2019年後期（８～10月）に老年看護学実習Ⅰを履修した看護学部３年生58名を対象に、2019年９～10月に実施した。2020年前期（５～６月）に老年看護学実習Ⅰを履修した者は、新型コロナウイルス感染症の影響で同一の実習形態ではないことから対象から除外した。

５．調査方法

老年看護学実習Ⅰの実習終了後、対象学生へ無記名自記式のアンケート調査を実施した。老年看護学実習Ⅰの目標に則り、実習施設、他施設の役

図1　学内演習の目的と方法

老年看護学実習Ⅰ　学内演習

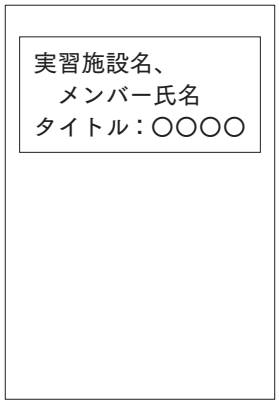
目的：実習の学びを相互に発表し、さらに広い視野で施設間の相違について理解を深める。
方法：

１．ディスカッション

実習グループに分かれて、次の点についてディスカッションする。
- 実習施設の役割と機能
- 生活の場における高齢者の強みを生かした援助
- 多職種連携の実際と看護職の役割・機能

２．ポスター作成

実習グループ内でディスカッションした内容を他者にわかりやすいポスターにまとめる。
様式：模造紙1枚を使って学びを記載する。
模造紙の上段に「タイトル、実習施設名、メンバー氏名」を記入する。
レイアウトは自由とする。
文字の多用よりも図やイラストを活用し、視覚的に理解できる工夫をする。
写真貼付、レクリエーションで使った物品などの実物掲示も可能。

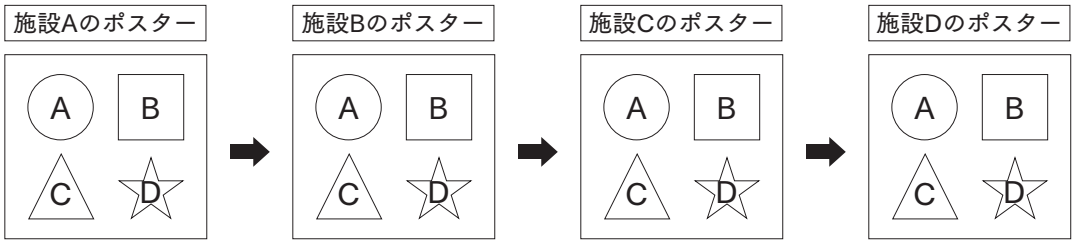


注意：パワーポイント資料の貼付不可

３．ポスターツアー（発表）
- 異なるポスターを作った者同士で新しいグループをつくる。
- 自分が作成したポスターについて他のグループメンバーに説明する。
- 発表時間は質疑応答含め15分間とする。
- 発表終了後、各グループから全体を通した学びや感想を発表する。
- 終了後、行動計画（様式Ⅰ）の「実施内容・考察」欄へ学びを記載する。

４．評　価
- 自分が作成したもの以外のポスターの評価を行う。
- 「理解しやすい内容か、効果的な発表か、関心が持てたか」について、５段階で評価する。
  実習グループ一律の点数となる。
- 評価結果は、実習評価へ反映させる。

図２　ツアーグループ



〇施設Aで実施したメンバー　□施設Bで実施したメンバー
△施設Cで実施したメンバー　☆施設Dで実施したメンバー

割・機能、施設間の相違に関する理解度を「とてもそう思う」、「少しそう思う」、「どちらでもない」、「あまり思わない」、「全く思わない」の５件法、またポスターツアー全体を通して良かった点、困った点および改善点を自由記載するように求めた。

６．分析方法

調査で得た回答は単純集計し、自由記載内容については意味内容の類似性に従って質的に分類した。得られた結果については、研究者間で合意が得られるまで検討を重ね、妥当性の確保に努めた。

７．倫理的配慮

調査の実施にあたり、学生に本調査結果は実習評価へ影響しないこと、個人が特定されないように配慮すること、調査結果をもとに老年看護学実習の教育改善を進めたい旨説明し了解を得た。

Ⅳ．結果

１．対象学生数

看護学部３年生58名全員から調査用紙が提出された（回収率100％）。

２．学生の学び

“実習施設の理解が深まった”の設問は、「とてもそう思う」54名（93.1％）、「少しそう思う」３名（5.2％）、「無回答」１名（1.7％）であった。“他施設の役割・機能がわかった”の設問は、「とてもそう思う」54名（93.1％）、「少しそう思う」２名（3.4％）、「どちらでもない」および「無回答」ともに１名（1.7％）であった。“施設間の相違がわかった”の設問は、「とてもそう思う」54名（93.1％）、「少しそう思う」２名（3.4％）、「あまり思わない」および「無回答」ともに１名（1.7％）であった。

自由記載内容について、意味内容の類似性に従って分類した内容は【　】、学生の意見は「　」で示す。

ポスターツアー全体を通して良かった点の自由記載には、「他施設との違いがわかったことで、より自分の実習先施設の役割が理解できた」、「同じ施設種類でも、それぞれの施設によって異なるところが見えて勉強になった」など【他施設との違いがわかり、実習した施設の理解がより深まった】ことや「他施設の役割や機能の違いがわかった」など【実習していない施設の特徴や役割・機能がわかった】、【実習した内容の情報共有ができた】といった実習の学びに関する内容が挙げられていた。

また、「発表しやすい雰囲気だった」、「ツアーにすることで少人数で行うため、話しやすく質問もしやすかった」など【少人数で行うため発表や質問がしやすかった】、【効果的なポスター作りについて考えることができた】、【自分で発表することで施設の理解が深まった】、【発表時間が丁度よかった】といったポスターツアーに関する内容も挙げられていた（表１）。

一方、ポスターツアー全体を通して困った点の自由記載では、「用紙が小さかったので、まとめるのが難しかった」、「情報が沢山あって１つの用紙にまとめるのが難しかった」など【模造紙１枚にまとめるのが難しかった】の意見が９件挙げられていた。その他、【ポスターの作成時間が短かった】、【発表時間が余ってしまった】、【発表時間が短かった】、「発表側の準備を十分にしていないと発表中つまってしまう、短い時間の中で伝えたいことをまとめることが大切だと思った」などの【発表に困難を感じた】、【他のグループの声が混じり発表が聞き取りにくかった】といった意見も挙げられていた（表２）。

ポスターツアーの改善点には【ポスターの大きさに関すること】、【ポスターの記載内容に関すること】、【ポスター発表に関すること】の内容が挙げられていた。「模造紙が小さいので、もっと大きくしたほうがよい」、「発表時間と作成時間を少し増やすべき」、「説明が前後しないように言いたいことをまとめる時間をとる」、「タイマーをそれぞれ配置する」など困った点に対応した改善内容が記載されていた。また、ポスターツアーは立って発表を聞く形式であったが、「座りたい」という意見や「もっと質問を積極的にしたい」という意見もあった。

Ⅴ．考　察

１．ポスターツアー（ジグソー法）を用いた学びの共有に対する学生の評価

老年看護学実習Ⅰにおける異なる実習施設での学びを共有するために、ポスターツアー（ジグソー法）を用いた教育実践を行った。ほとんどの学生は、実習目標に則った「実習施設」・「他施設の役割・機能」・「施設間の相違」に関する理解が

表１　ポスターツアー全体を通して良かった点

分　類	記　述　内　容
他施設との違いがわかり、実習した施設の理解がより深まった	他施設との違いがわかったことで、より自分の実習先施設の役割が理解できた（３件）
	同じ特養でも違いがわかったり、比べることで、自分たちが行った施設の特徴がよりわかった（２件）
	同じ施設種類でも、それぞれの施設によって異なるところが見えて勉強になった（12件）
実習していない施設の特徴や役割・機能がわかった	他の施設の特徴を知ることができた（13件）
	他施設の役割や機能の違いがわかった（20件）
	自分が行けなかった施設の何に力を入れているか、どういった取り組みをしているのか知ることができた（３件）
	他の施設では、ターミナル期の生活で、最期を迎えられるまで悔いのない生活を送ることができるような支援をしていて、施設によっても全く違うと感じ、勉強になりました
実習した内容の情報共有ができた	施設の特徴やその施設で体験してきたことなど共有できた（３件）
	グループを超えて情報を共有できる
	実際に行ったレクとかを聞いて、対象者に合わせて、その人たちに適したことを行っていると学んだ
	レクリエーションを企画したグループのアイディアもすごく参考になると感じた
少人数で行うため発表や質問がしやすかった	ツアーにすることで少人数で行うため､話しやすく質問もしやすかった（３件）
	グループでまわることで質問がしやすかった（４件）
	発表しやすい雰囲気だった
	距離が近いから質問しやすい
	少人数で回ることで遠くで集中できるので良かった
	今まで他の授業では行ったことのない形式で理解が深まった、PBLとかよりも質問しやすい雰囲気で楽しく頭に入ってくる
	グループでのディスカッションを通して、実習での学びを再確認できたこと
効果的なポスター作りについて考えることができた	効果的なポスター作りについて考えることができた
	大事な箇所が強調されていたためわかりやすかった
	ポスターを作るのもグループ皆で楽しくできたのでとても良い
	施設のイメージをもちやすかった（２件）
自分で発表することで施設の理解が深まった	自分一人で発表しないといけないので、理解が深まった
発表時間が丁度良かった	15分の発表時間が丁度良かった

深まったと評価していた。学生の自由記載にも、実習施設の特徴の理解が深まった、他施設との違いや同じ種類の施設でもそれぞれに力点を置いているところの違いを理解したという肯定的な意見が記載されていた。これまでも、異なる実習施設の学びは報告会によって共有を図っていたが、質疑応答の時間に限りがあり、それぞれの施設の特徴理解が深まらないままに終了することが課題であった。今回、ポスターツアーの良かった点として、【少人数で行うため発表や質問がしやすかった】という意見に示されたように、質疑応答に十分な時間が確保され、さらに少人数による議論が活発化することで発表全体への理解度を深めることに繋がったと考えられた。

ポスターツアーは、異なるポスターを作成した学生同士で新しいグループを作り、自分が作成したポスターについて他のグループメンバーに説明をする仕組みとなっていた。このポスターツアーの良かった点として、学生は【効果的なポスター作りについて考えることができた】、【自分で発表することで施設の理解が深まった】と述べていた。ポスター作成については、グループワークに先立ち、ポスターはパワーポイント資料の貼付は不可という留意事項を示していた。そのため、グ

表２　ポスターツアー全体を通して困った点

分　類	記　述　内　容
模造紙１枚にまとめるのが難しかった	用紙が小さかったので、まとめるのが難しかった（３件）
	模造紙が１枚じゃ足りなかった（２件）
	情報が沢山あって１つの用紙にまとめるのが難しかった（２件）
	まとめる内容がそれぞれで違って少し困った
	ポスターは作るのに慣れていないこと、少し時間が限られていたこともあって作成が少し困難だった
ポスターの作成時間が短かった	作業時間が短く感じた（３件）
	時間が短く、内容についてのリハーサルする時間がなかったこと
発表時間が余ってしまった	時間が余ってしまった（３件）
	15分という発表時間が長い（２件）
	時間が少し長く、ポスターの内容だけでは時間が余った
発表時間が短かった	時間が短かった、質問の時間が欲しかった
	特にないが、時間が短く感じた
発表に困難を感じた	発表側の準備を十分にしていないと発表中つまってしまう、短い時間の中で伝えたいことをまとめることが大切だと思った
	ポスターを簡潔にまとめたので、しゃべるときに何を補足して話すかを困った
	発表することを事前に確認していなかったため、言うことに困った
	難しい表現の仕方があり、みんなに伝わるようにするにはどうすればよいのか考えた
	メンバー間で伝えたり、伝えられなかったら不安
	タイマーが全体で１つだったため、時間配分に悩んだ
他のグループの声が混じり発表が聞き取りにくかった	他のグループの声が混ざって聞きとりにくかった

ループワークでは、実習の学びをどのように模造紙１枚に凝縮したらよいかという課題が必然的に生まれた。それと同時に、学生はグループの代表として発表する責任を認識し、個人が実習で得た数多くの学びを共有し新たな学びを再構成するグループワークに積極的に関与したことが考えられた。こうした協同学習は、メンバーの関与を高め、グループ内でのコミュニケ―ションの向上、グループワーク学習に対する責任を促すという利点（Ulrich & Glendon, 1999/2002, p.10）がある。このことから、ポスターツアーの実施はこれまで課題としていたグループワークで自分の担当箇所以外の無関心さを減少させ、実習した高齢者施設の理解をさらに深める効果があったと評価できる。また、グループ学習に個人の活動を基本とすることはフリーライダーを生み出すメカニズムを回避する（森，2017）ため、今後もグループ学習の展開に応用したい。

２．ポスター作成と発表に対する学生の意見

ポスターツアー全体を通して困ったこととして、グループワークの学びを【模造紙１枚にまとめるのが難しかった】、【ポスターの作成時間が短かった】という意見があった。今回のグループワークのテーマは「実習施設の役割と機能」、「生活の場における高齢者の強みを生かした援助」、「多職種連携の実際と看護職の役割・機能」の３項目であった。このうち、「実習施設の役割と機能」「多職種連携の実際と看護職の役割・機能」の２項目は、実習施設の法的根拠に基づいて定められた内容がほとんどであり、一人一人の学生の学習内容に大きな差はなかったと考える。残りの「生活の場における高齢者の強みを生かした援助」については、一人一人の学生が見学した援助場面によって多様な学びがあったことが推察された。つまり、同じグループ内でも、学生の実習体験の差異が大きいほど、グループによる新たな学びを生み

出す作業は困難かつ時間を要するものであったのではないかと考えられた。ポスターツアー（ジグソー法）では、グループの代表となった学生がポスターの内容を熟知し説明する責任を負うものである。そのため、「どの学習活動が独立して行われるのかに最適であり、どの学習活動が協同して行われるのに最適であるか」（Barkley & Major, 2016/2020, p.31）を吟味する必要があった。今後、グループワークで共有した学びをどの程度までポスターに記載するべきなのかを検討していきたい。

ポスターツアーの発表時間については、【発表時間が余ってしまった】という意見や【発表時間が短かった】と相反する意見もみられた。今回のポスターツアーの発表時間は質疑応答を含め15分と設定し、教員の側から発表時間や質疑応答の時間を区切らなかった。したがって、発表となった学生は１人で15分の時間のなかで、発表と質疑応答の時間配分を調整しなくてはいけなかった。ポスターの貼付場所によっては教室内の時計が視野に入らない場合もあり、物理的に難しい側面があったと考える。新人看護師を対象にした調査では、学生は臨地実習で考えた優先順位や時間配分などから「時間管理」について学んでいることがわかっている（山本，中本，2017）。臨地実習が途上の段階にある学生にとっては、時間の目安や調整は見当がつかなかった可能性が考えられた。以上のことから、ポスターツアーを実施するにあたって、時間を確認できる環境を調整することや事前に学生が時間配分を考えられるような説明が必要であった。

ポスターツアーの発表時間や時間配分の課題については、学生からのアンケートの自由記載にもみられた。そのなかには、「説明が前後しないように言いたいことをまとめる時間をとる」、「もっと質問を積極的にしたい」など、学生自らが発表内容を自発的に振り返り、次回以降の改善点や課題を提示していると考えられた。このことからも、学生が責任をもって他のグループメンバーへ説明するという要素を取り入れた教育実践は効果的であったと評価する。

Ⅵ．まとめ

ポスターツアー（ジグソー法）を用いた実習の学びの共有は、質疑応答に十分な時間を費やすことが可能となり、発表全体への理解度を深めたと評価する。また、グループメンバー全員が代表として、異なるグループで学びを発表する活動は、フリーライダーを抑止するとともに個人の学びを深める点からも効果的であったと考える。

一方、ポスター作成の時間に関しては十分な時間がないと評価する学生もおり、協同学習に適した課題であるかどうかを十分吟味する課題が挙げられた。

謝　辞

教育実践に関するアンケート調査に参加協力してくれた学生の皆様に感謝を申し上げます。

利益相反

本論文について他者との利益関係はない。

本研究は第21回日本赤十字看護学会学術集会にて発表した。

引用文献

Barkley, E. & Major, C.（2016）/吉田塁（監訳）（2020）．学習評価ハンドブック　アクティブラーニングを促す50の技法．東京大学出版会，31.

出井理恵子，河原畑尚美，平木尚美，名古屋紘子，小野幸子（2013）．異なる施設での実習体験を共有する「老年看護学実習のまとめ」の検討―学生による評価の分析から―．北日本看護学会誌，16（1），51-60.

溝上慎一（2014）．アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換．東信堂, 91.

森朋子（2017）．「わかったつもり」を「わかった」へ導く反転授業の学び．森朋子，溝上慎一（編），アクティブラーニング型授業としての反転授業（理論編）（pp.19-35）.ナカニシヤ出版.

竹中龍範，餅知隆（2017）．知識構成型ジグソー法を用いたポスターツアーの試み―英語授業にアクティブ・ラーニングを取り入れて―．香川大学教育実践総合研究，34，41-54.

山本純子，中本明世（2017）．新人看護師が臨床1年目の経験を通して活用した看護基礎教育の学び―学士課程卒新人看護師の3事例―．日本看護医療学会雑誌，19（1），13-20.

Ulrich, D. & Glendon, K.（1999）/ 高島直美（訳）（2002）．看護教育におけるグループ学習のすすめ方．医学書院, 10.